

それは、それは、大きな寺で、近郷近在きんきょうきんざいの人々の信仰しんこうの中心しんこうだったのだ。宿坊しゆくぼうもたくさんあつて、修行僧しゆぎようそうも大勢おおぜいおつて、会津では大きな勢力せいりよくを持つておつたそうだ。

旧暦四月十七日信仰の行事として、大人は、大人同士で講こうを結び、子供達は重箱じゆうばこにしみ餅もちや餅炒りもちい、山椒芋等さんしょういもなどを入れてもらつて持ちより、神社や寺のそうじをしたあとで、皆で食べたり遊んだりして楽しんだのだ。

七世紀頃たかでらに高寺は、坂下町の近くたちきに立木観音寺たつきかんのんじとして移築いぢくされて、現在いまも大勢おおぜいの人々に信仰しんこうされていたのだ。

高山講たかやまこうは、昭和二十五年頃まで続いていたが、その後は、講こうもすたれ、そんな行事もなくなつてしまつただど。